



INTERCOUNTRY

インターカントリー

No.43 2012

社会福祉法人 日本国際社会事業団

International Social Service Japan

55年前に海を渡った養子が実の弟と再会しました

上に掲載されている写真のケースについてご紹介します。写真の女の子は、ISSJの援助で後ろに写る飛行機に乗り、アメリカの養親のもとへ旅立っていきました。55年の歳月が流れ、再度ISSJの援助を求める依頼があり、7月にはISSJの事務所を訪問する機会に恵まれました。

日本国籍の愛ちゃん(2歳、仮名)が実母一人の手で大切に育てられていたのは、まだ戦後の混乱が残る東京でした。実母には地方に住む家族がありましたが、愛ちゃんが外国人との混血児であったことから家族の援助を受けられず、夜に仕事をして愛ちゃんを育てていたのです。愛ちゃんの実父は当時日本に駐留していた米国軍人でした。実父母は神社で結婚式を挙げ二人で幸せそうな笑顔の写真を取った翌年に、実父は米軍の命を受けて帰国しました。その時すでに実母は愛ちゃんを身ごもっており、実父の帰国後も2、3通の手紙が実母の元に届きましたが、結局連絡は途絶えたのです。



娘さんと来日しました

当時ひとり親で子どもを育てることはとても苦勞が多く、さらに愛ちゃんは混血児だったことから世間の風当たりは強く、差別、偏見にもさらされ、実母は次第に生活に疲れていったのです。そんな中で実母はISSJの存在を知りました。実母は愛ちゃんのこと、実父のことも愛していたので、愛ちゃんを手放すことを最後まで悩みました。実父と相談をしようにも連絡はとれず、悩んだ末に米国人とのハーフである娘をこのまま差別や偏見の中で不安定な生活のまま育てていくよりも、米国で養父母の愛情に包まれ安定した生活を送ることが愛ちゃんの幸せではないかと思い、実母は手放すことを決意したのです。(次ページに続く)

事務所移転のお知らせ

この度、ISSJは下記に事務所を移転しました。

新住所 〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2 御茶ノ水K&Kビル3F
TEL(03)5840-5711 FAX(03)3868-0415 IPTEL(050)5527-0968
E-mail issj@issj.org URL www.issj.org

最寄駅

- ・JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口(東京駅寄りの改札)より徒歩5分
- ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」より徒歩5分
- ・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」より徒歩5分



再会を喜ぶ姉と弟

母の居所を確定するために取り寄せた戸籍の付表には実母が数年前に亡くなっていることが書いてありました。それを知った愛さんは深く悲しみ、せめて親戚と連絡を取れないかものと I S S J に依頼しました。すると愛さんには異父兄弟の弟が二人いることが判明しました。弟たちも最初は驚き、戸惑いもあったものの姉の存在を受入れ、愛さんと弟たち家族との再会が実現しました。何十年もの年月を超えて初めて出会った姉に弟たちは実母のお骨を分けて渡しました。その後に行われた実母の7回忌には愛さんと愛さんの娘の姿があり、お墓に眠る実母に50年後の挨拶をしました。天国の実母も喜んでくれていると信じて。(ソーシャルワーカー 相宮陽子)

【財団法人JKA補助事業】



カンボジアスタッフ来日研修

I S S J ではカンボジア・プノンペン のウナロム寺院内にあるひろしまハウスで、貧困家庭の子ども達のための識字教育プログラム・プテアニョム(にこにこの家)を行なっています。この度国際ボランティア貯金の助成により、初めてカンボジア人スタッフ2名を10日間の研修のため日本に呼ぶことができました。普段は教師とマネージャーの役割を担い、夜や週末は大学院などで勉強を続ける忙しい二人は、どちらも海外に出るのは初めて。7月22日、無事飛行機を乗り継いで成田に到着。東京では児童館や図書館、小学校での児童クラブ、児童養護施設などを訪問しました。カンボジアで見ると大きな収容施設を予想していた二人は、こじんまりとし家庭的な日本の児童養護施設に驚いた様子でした。4日間は、ひろしまハウスの運営主体であるひろしまカンボジア市民交流会の協力により、広島に滞在することができました。平和記念資料館の見学をはじめ広島でも忙しい日程でしたが、宮島観光や、広島城では鎧兜や袴の試着もし、『広島では日本の文化を学んだ』と二人とも興奮した様子でした。

日本の教育や福祉に関する研修という名目ではありませんが、国の事情を比較し合い、お互いに多くを学ぶ事ができました。カンボジアにない仕組み、日本が新たに抱える問題…。違いを知ること、お互い諦めずに、目の前にいる子ども達のためにできることを模索していく力になるはずです。



カンボジアスタッフと I S S J 事務所にて



東北ハーブコンサート開催と関係施設訪問

I S Sのメンバーであるfamily international frankfurt inc. (在ドイツ・フランクフルト)が、ドイツのチャリティー団体から寄付を受けてこの企画は始まりました。「寄付金は東北で被災した子ども達とI S S Jの活動のためにぜひ使ってください」とドイツの温かい支援を受け、被災地である気仙沼でのハーブコンサートを計画しました。演奏はI S S Jの評議員で、ミュージックセラピストでもある池田千鶴子さんです。



気仙沼でのハーブコンサート

当日は、会場の児童養護施設に暮らす子ども達をはじめ、施設の職員、児童相談所の職員、近所の方々等、40名程度の参加がありました。演奏と語りが始まると大人も子どももハーブに興味津々。音色にうっとりし、一緒に歌い、心を洗われるようなひと時を過ごしました。参加者の中には、津波で家を流された方、仮設住宅に住む方がいらっしゃったと伺いました。会場となった養護施設は高台にあるので直接津波の被害はなかったそうですが、地震で大人も子どもも怖い思いをしたことでしょう。「ハーブの弦を触った！」と弾けるような笑顔で報告してくれた子ども達、頬に涙の跡を光らせる大人の参加者たち、皆にとっていい思い出になったことを願ってやみません。会場を快くお貸し下さった児童養護施設 旭が丘学園の園長先生はじめ皆さまには大変感謝しております。今回は、気仙沼でのコンサートの他にも東北各地の児童養護施設、児童相談所や子ども総合センターを訪問させていただきました。特に岩手の児童養護施設では、仮設施設に暮らす子ども達を急遽集め、サウルハーブでの即興演奏会を行わせていただきました。大好きなジブリの曲が、初めて聞く音色で演奏され、子ども達は「すごい！」と興奮していました。

各施設では震災後の現状を何うとともに、当事業団の活動の紹介もさせていただきました。震災の後に海外から事業団に届いた多くの気遣いや励ましを現場で働いていらっしゃる方々に伝えることができました。震災孤児のほぼ全員が親族に引き取られているのは皆さんもニュースなどでご存じかもしれませんが、実際は親族だからこそ、外部の支援を借りずに頑張りすぎてしまう例や高齢の祖父母が孫の将来を案じる例があると、教えて頂きました。東北地域の児童養護に共通する課題としては、里親委託の数が少なく施設で育つ子どもが多いことが挙げられました。これは、実親が子どもを手放したくないという思いと里親登録数の伸び悩みが原因と考えられます。被虐待児が増える中、職員の方々と家庭養護の大切さを再認識しました。今回の旅で目の当たりにした津波の悲惨さや、被災された方々を思いつつ、ハーブコンサート、関係施設でお会いした方々との「絆」をこれからも深め、子どもの福祉の分野で協力していきたいと、心から思った旅でした。(ソーシャルワーカー 田中美結)

理事長交代のお知らせ

当事業団理事長岩井敏は去る平成24年7月16日に逝去致しました。故岩井敏理事長は昭和57年3月に、当時のI S S J理事長安井謙(国会議員・参議院議長)の要請を受け当事業団の評議員として就任後、理事、監事、副理事長を経て平成18年6月から理事長を務めました。特に親の養育が得られない子どもに対する愛情はとても強く、当事業団の国際養子縁組によって海外に行く子ども達の幸せを常に願っておりました。血縁関係の無い子どもを引き取って育ててくださる養親の人たちにはいつも頭が下がりますとお礼の心を伝えて、私たちスタッフには「命を守る大切な仕事をしているのだ」という自覚を持ちながらしっかりと仕事をしようと話しておりました。

岩井理事長逝去に伴い、副理事長の大槻弥栄子が理事長を務めることになりました。大槻弥栄子は大学で社会福祉を学び、福祉の世界での実務経験を豊かに持っております。長年I S S Jの理事、常務理事、そして副理事長を務めました。

これからも故岩井理事長のお心を大切に受け継ぎ、より良い活動をしていくよう役職員一同心を合わせて、誠意邁進して参ります。どうぞ、皆様には更なるご支援とご協力を賜りたくよろしくごお願い申し上げます。

大森邦子(常務理事)



国際養子縁組援助のケース

最近のケースをご紹介します。養護施設で暮らすヒデくん（仮名5歳）が、今年1月、アメリカ人の一家に委託されました。夫妻には長男（11歳）、次男（8歳）、長女（7歳）がいます。次男と長女はアラスカ原住民の母をもつ実兄妹で、5年前にそろって夫妻に養子縁組されています。ヒデくんの母は、妊娠中に覚せい剤を使用していました。幸いヒデくんには発達上の問題はありませんでした。里親委託は実現しないまま3歳になりました。児童相談所と養護施設は、実親に引き取られる見込みのないヒデくんの将来をISSJの国際養子縁組に託すことにしました。養親夫妻の家庭調査を受理したISSJは、さっそく調査を実施したアメリカの認可団体に、ヒデくんの児童調査書を送付し、夫妻とのマッチングを打診したところ、夫妻は快諾しました。養親一家は3週間ほど日本に滞在し、ISSJでの最終面接、アメリカ大使館での移民ビザ申請を終え、養護施設での実習に臨みました。外出や外泊を重ね、ヒデくんはすんなりと新しい家族にうちとけることができました。夫妻にべったりとあまえるようになったヒデくんを連れて、一家は帰国しました。ISSJには、適応報告書と共に、家族に囲まれはじけるような笑顔のヒデくんの写真が定期的に送られてきます。児童相談所と養護施設の担当者もヒデくんが新しい家族の下で元気に暮らしていることを心から喜んでいきます。【財団法人JKA補助事業】

国籍取得・送還援助のケース

ISSJで援助している未成年者の就籍のケースはその多くがフィリピン国籍のものです。その中から最近のケースの一つを紹介します。このケースは、東京入管理事務所から照会されてきたもので、一年にわたりこのケースの援助を行っています。日本在住で失踪したアメリカ人と不法滞在のフィリピン人との間に生まれた5歳の男の子は両親が未婚のため、出生届けも出されていませんでした。ISSJソーシャルワーカーはフィリピン人母と面接を重ねる、と同時にフィリピン社会福祉開発省（DSWD）およびフィリピン大使館と連絡を取り、男の子はフィリピン国籍を取得することが出来ました。さらに子どもの最善の利益を守るため、母と子どもが母国フィリピンにの親族の元で定めた生活出来るよう必要書類を調べたり、調整を進めています。【財団法人日本財団援助事業】

難民申請者への援助

ISSJでは入国管理センターに収容されている難民申請者へのカウンセリング提供に加え、昨年より随時臨床心理士によるカウンセリングを行なっています。本年度はグループセラピーを企画し行なっています。難民申請者の収容は減少しているものの、法的に不安定な立場であり、健康をはじめとする複数の問題を抱えやすい申請者への、個別のソーシャルワークの重要さは増す一方です。より多くの理解者を得るため、11月には講師を招き、難民のソーシャルワークとケースマネジメントについてのワークショップを企画しています。【UNHCR委託事業】



補助金、助成金事業完了のご報告

この度、平成23年度、財団法人JKA（旧日本自転車振興会）補助金、財団法人日本財団助成金、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構 国際ボランティア貯金寄附金の交付を受けて下記の事業を完了致しました。ここに、ご報告と共に感謝の意を表します。

平成24年4月完了

JKA

「国際的児童難民家族相談等補助事業」

日本財団

「国境を越えた未成年者への家族再会援助」

平成24年6月完了

国際ボランティア貯金

「カンボジアの貧困家庭の子どものための識字教育及び母親への自立訓練（給食実施）プログラムの実施」



第65回チャリティ映画会・バザー開催のご案内

今年は例年になく残暑がきびしい夏でしたが、10月に入り吹く風に秋が感じられるようになりました。いつもISSJ映画会にお越し頂き誠にありがとうございます。6月15日に一ツ橋ホールで開催した第64回映画会は3回合わせて1388人にご来場いただき、上映作品「ジュリエットの手紙」もとても好評でした。皆様からのご支援は参加券、募金、バザーへのご協力を合わせて2,808,089円で、国境を越えて支援を必要としている子ども達とその家族のために大切に使用させていただきます。

次回第65回映画会は2012年10月19日（金）開催予定で、上映作品は「英国王のスピーチ」です。英国エリザベス女王の父、ジョージ6世の実話にもとづく家族愛、夫婦愛を描いた心温まる作品で、吃音症に悩む王がユニークな言語療法士の治療のもとで困難を克服していく姿が描かれています。この作品は2011年アカデミー賞作品賞、主演男優賞、監督賞、脚本賞の4冠に輝いた作品で、日本では8月から舞台公演もされています。今年は英国エリザベス女王の戴冠60年記念の年、またロンドンオリンピックも開催された年でもあります。なにかと英国関連の話題が豊富な時に上映する「英国王のスピーチ」、大スクリーンでは是非お楽しみください。

同時開催のバザーもボランティア手作り品、協賛企業からの提供品、アジア製品など豊富な内容となっております。皆様のお越しが多くの子ども達の援助に役立っております。ご来場を心よりお待ちしております。

日時 : 2012年10月19日（金） 11:00、14:45、18:30
場所 : 一ツ橋ホール（日本教育会館3F、神保町駅徒歩3分）
上映作品 : 英国王のスピーチ（イギリス映画 上映時間118分）

英国王のスピーチ *The King's Speech*



★2012年は英国エリザベス女王在位60年記念の年～貴方に贈るエリザベス女王の父ジョージ6世の心温まる実話～
2011年アカデミー賞4冠（作品賞、主演男優賞、監督賞、脚本賞）に輝く！

根岸 理恵



初めまして。今年の4月より、ISSJにてソーシャルワーカーとして働いています、根岸と申します。あっという間に半年が過ぎましたが、まだまだ分からないことも多く、日々学んでいます！私は、元々は、心理学を専門としておりました。大学では心理学、特にカウンセリングや発達心理学を専攻し、将来は臨床心理に関わる仕事に就こうと思っていました。また、体で表現したり、演劇をすることも好きだったので、心理学と演劇との関わりをもっと勉強したいと思い、ニューヨークにてドラマセラピーという分野を学びに大学院に行きました。大学院では、移民や難民への支援を行っている団体にてインターンをする事ができ、日本に帰国後は、異文化関係や難民関係の関わりをもったところで働きたいと思っていました。その後しばらくは、様々な場所で心理学関係や他の仕事もしていましたが、今回、念願の難民支援にも関わりが持てる職場で働くことができ、とても嬉しく思っています。養子縁組の方でも仕事をさせていただいておりますが、これからもっと勉強をし、頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

ロリ - タ イバネス ロブレ



私は、9人兄弟の4番目の子どもとしてフィリピンのダバオで生まれました。同市のミンダナオ大学で福祉の学士を取得し、DSWDで働き始めました。その後大学の同級生と結婚し、現在22歳の娘、15歳と14歳の息子の3人の子どもに恵まれました。DSWDで働いた最初の6年間に3カ所の支援施設での仕事を担当しました。1つはストリ - トチルドレンのための家、2つめは罪に問われている若者のための地域のリハビリテーション・センター、3つめはレイプ、肉体的精神的虐待や不法採用等に苦しむ少女や女性の世話をする家です。私はソーシャルワーカーとして、クライアントのリハビリテーションや彼らが家族やコミュニティへ復帰するため尽力しました。その後、遺棄、ネグレクト、施設に引き取られた子ども達等の特別な保護を必要とする子ども達に対処するコミュニティ - に根ざしたサービスを行う部署を担当しました。このような子ども達には、両親が子どもの世話をできない場合には、里親養育、国内および国際養子縁組による代替の育ててを提供しています。今回のISSJでの経験は、帰国後の仕事に多いに役立つものと確信しています。

ISSJ活動報告2012年1月 8月			
1月		22~25日	カナダ、バンフのISS国際会議参加(伊部事務局長)
27~28日	カンボジア出張(重藤、石川SW)	23日	FRJ理事会
2月		23日	NHK取材
9日	大阪市子ども相談センター宮本氏、岩佐氏、児童養護施設四恩学園 濱田氏来所	28日	RCCJ代表と面談
3月		6月	
21日	第332回理事会・第158回評議員会	6日	FRJ理事会
31日	桜東京パイロットクラブチャリティコンサート出席	12日	UNHCR会議
4月		15日	第63回チャリティ映画会開催
6日	日本財団「春の交流会」出席	19日	難民第三国定住有識者会議
23日	鳥居順子先生の国際的な子の奪取に関するハーグ条約の勉強会	20日	UNHCR難民の日シンポジウム参加
24日	JKA補助金に関する説明会	25日	FRJ理事会
25日	日本財団監査	27日	UNHCR会議
26日	UNHCR-RCCJ 難民ナウ ネット討論会出席	28日	日本財団監査
5月		7月	
8日	難民の三者会議	3日	鈴鹿市第三国定住家族訪問
14日	上智大学岡教授面談	7~12日	ジュネーブにて難民の第三国定住に関する三者協議(ATCR)参加(大森常務理事)
16日	第333回理事会・第159回評議員会	27日	難民受入円卓会議出席
16日	難民の三者会議; ISSJ役員会	8月	
17日	UNHCR-ダニエル・アルカル氏と面談	2日	JKA 機関紙「べだる」記事のための取材
17日	FRJ役員会	2日	養護施設理事長林千代氏来所
		30日	FRJ役員会

インターカントリー第43号 2012年9月30日発行

発行：社会福祉法人 日本国際社会事業団
International Social Service Japan (ISSJ)

発行責任者：常務理事 大森邦子

発行所：〒153-0051東京都目黒区上目黒3-6-18
西村ビル601号

TEL : 03-3760-3471 FAX: 03-3760-3474
E-Mail : issj@issj.org URL : www.issj.org

ISSJの活動は、JKA(旧日本自転車振興会)、日本財団、郵便貯金簡易生命保険管理機構国際ボランティア貯金、UNHCR(難民高等弁務官事務所)、東京メソニック協会、東京都共同募金会及び個人、団体の会員の皆様、また善意のご寄付を下さいます多くの皆様に支えられております。ありがとうございます。今後ともどうぞご支援、ご協力をよろしくお願申し上げます。